

## Vernet, Horace

### *Incroyables et merveilleuses*

Paris, [s. n.], [ca. 1815]. 33 plates (copper hand-col.). 42.5×30.5cm. <K383. 135-V> 文献番号 3-70

Hiler p. 875    Colas 2992    Lipper. 1154

ヴェルネ『アंकロワヤブルとメルベユーズ』

33枚のプレートからなる手彩色銅版画集である。各プレートにアंकロワヤブル（男性）とメルベユーズ（女性）のタイトルがつき、簡単な衣装説明が付記されている。発行者、発行年などは不明であり、表題や解説はない。ヴェルネの筆になるのはNo. 1～31まで、残りの2枚はランテ（Louis-Marie Lanté, 1789-?）の作であり、版画はすべてガティエヌ（Georges-Jacques Gatine, 1773-1824）による。

ヴェルネ（1789-1863）は、祖父が有名な風景画家ジョゼフ（V. Joseph）、父は風俗や戦争画で名高いカルル（V. Carle）という血筋を受け継ぎ、著名な画家として活躍した。本書は若年の頃のデッサンによるもので、当時発行されていた婦人雑誌 *Journal des dames et des modes* <K383. 135-J> にも作品を発表しているところから、類似の作品が本プレートにも入っていると考えられる。

アंकロワヤブルとメルベユーズは、総裁政府時代（1795-99）にパリに現われた一風変わった身なりをした若者たちのことであり、急進左派のサンキュロットに対抗してブルジョワの子弟が奇抜な衣装ときどった身ごなしでアピールしたものである。本書は、衣装のスタイルの上からみて発行年が1815年頃と推定されており、タイトルと時代的なずれが生じているが、この点に関しては1955年刊行の復刻版、つまり *Incroyables et merveilleuses Paris 1810-1818*. Paris, Éditions Rombaldi, 1955 <383. 135-C-5> において、国立図書館の版画室長ヴェイジェル（Roger-Armand Weigert）は次のように解説している。オラスの父カルルがかつて描いたカリカチュアのアंकロワヤブルとメルベユーズのデッサンの精神を真似て、1815年前後の風俗をいくらか誇張と風刺をこめて描いたものであり、当時の *Journal des dames et des modes* などとの比較検討により、それぞれ1810年から1818年にかけて描かれたものであることが確認されている。したがって本書の中味は、ナポレオンの帝政時代と王政復古初期のパリの若者の風俗をやや誇張して表現した作品集ということになる。

手首まで隠れる長い袖、高いシャツの衿とクラヴァット、派手なベストにテールのない上着、脚にフィットしたキュロットとといったいで立ちに、ステッキやしゃらしゃら鳴る時計の飾りやめがねといった付属品できめた洒落者。パーケル地のローブから覗く足首といきな靴、カポットにパラソルの娘たち。いかにも気取った表情とポーズが巧みに表現されており、当時の風俗を知る好資料である。（辻）



アンクロワヤブル



メルベユーズ